富士山麓の武士たち

古代官道の甲斐路は、鎌倉幕府が誕生すると甲斐国と鎌倉を結ぶ重要ルートとして、武士などが通行した。
甲府盆地から御坂峠を越えて富士の麓を通る鎌倉街道の周辺には、多くの在地武士が活躍していた。

⑥③ 御坂城跡（みさかじょうあと）

笛吹市と富士河口湖町の境に位置し、鎌倉街道をおさえるための城であった。築城年代は未詳だが、天正十年（１５８２）の天正壬午の乱の際、甲府盆地に陣を置く徳川家に対峙するために北条氏が修築した。深い堀やＬ字型の土塁などで、街道の遮断を意識した造りである。笛吹市・富士河口湖町指定史跡。

⑥④ 河口浅間神社（かわぐちあさまじんじゃ）

富士山の噴火を鎮めるため、浅間神を奉斎したという。ここで行われる稚児舞は、国の重要無形文化財に指定されている。境内の七年杉は、県指定天然記念物、本殿は富士河口湖町指定有形文化材。神社のすぐ南に、河口氏の館があったと考えられている。河口氏は、小林氏が大きな勢力をふるう以前に、周辺を治めていたという。

⑥⑤ 筒口神社（つつぐちじんじゃ）

河口湖南岸の湖水が渦巻いていた場所を筒口と呼んだ。水難が相次いだため、筒口をふさぎ、水神を祀ったとされる。文亀四年（１５０４）、河口湖が増水した際、小林尾張守がこの筒口を開放したという。

⑥⑤筒口神社

⑥⑥ 船津関所跡（ふなつせきしょあと）

鎌倉街道の船津村・松山村の村境に設けられ、富士山の道者などから関銭を徴収していたと考えられる。永禄二年（１５５９）、武田信玄が戦死者追悼のために建立した丸尾（まるび）地蔵堂（富士河口湖町指定有形文化財）がある。

⑥⑦ 天上山烽火台跡（てんじょうさんのろしだいあと）

船津の関所、吉田の城山、鐘山を見下ろす位置に立地する。富士山麓と国中地域を結ぶ烽火台のうちでは、重要な場所であったと推察される。

⑥⑧ 船津鐘突堂跡（ふなつかねつきどうあと）

天上山から南に張り出した尾根に築かれた鐘突堂。天上山烽火台と関連する遺構と考えられる。スポーツグラウンドの造成により、大部分が削平されているが、鎌倉街道を見下ろす場所に立地している。

⑥⑧船津鐘突堂跡

⑥⑥船津関所跡（丸尾地蔵堂）

⑥④河口浅間神社

⑦③北口本宮冨士浅間神社

河口湖ルート（往復）	富士吉田ルート（往復）
徒歩　4時間	徒歩　2時間
車　　1時間	車　　30分

富士河口湖町　西桂町　富士吉田市

郡内地域を治めていた小山田氏は、多くの在地武士を配下に従えており、船津から吉田周辺は小山田氏家老の小林氏が治めていた。小林氏は、吉田城山における今川勢との戦いで活躍したという。

⑬御坂城跡

⑪下吉田新屋敷

⑨倉見氏館跡（くらみしやかたあと）

小山田・小林両氏の流れをくむ倉見新九郎の屋敷があったと伝えられる。新九郎の死後は、河村家に婿入りした弟が一帯を治めたという。現在、遺構は定かでない。

⑩宝養寺（ほうようじ）

明応五年（1496）創建という。倉見新九郎の死後、河村氏を名乗った弟の位牌と、江戸時代に建てられた墓が残る。また、宝養寺の本堂裏手には、堂山の烽火台跡がある。

⑩宝養寺

⑪下吉田新屋敷（しもよしだあらやしき）

小林氏の居館跡。船津に構えていた屋敷を現在地へ移したと考えられる。小林氏が鵜ノ嶋の弁財天をこの地に祀り、現在の市杵嶋神社（いちきしまじんじゃ）（弁財天）はその後身とされる。

⑫松山館（まつやまやかた）

松尾神社の境内および隣接する常唱院（じょうしょいん）付近が小林氏の館跡と伝えられる。この館を中心として周辺の集落が整えられたという。

⑬北口本宮富士浅間神社（きたぐちほんぐうふじせんげんじんじゃ）

永禄四年（1561）、武田信玄が、境内で現存する社殿では最古の東宮本殿を再興。その後、豊臣秀吉の支配下で甲斐国を浅野長政・幸長（よしなが）親子が治めるようになると、都留郡の支配を任された浅野氏重（うじしげ）が、文禄三年（1594）に西宮本殿を建立した。東宮・西宮とも国指定重要文化財。

⑫松山館

⑭吉田城山（よしだじょうやま）・小倉山（おぐらやま）

文亀元年（1501）九月、北条早雲（そうう）（伊勢宗瑞（そうずい））が甲斐国に侵入し、吉田城山と小倉山に布陣する。甲斐国側では、大軍で敵陣を包囲し北条方を撃退した。永正十三年（1516）には、籠坂（かごさか）口から侵入してきた駿河の今川勢と、小山田氏を中心とする都留郡の在地武士が、吉田城山において激しい戦闘を繰り広げた。吉田城山の郭は、発掘調査で柱穴などが確認されている。